

令和3年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76～100) B:できた(61～75) C:あまりできなかった(28～50) D:できなかった(0～25)

領域	重点目標	令和3年度 具体的な取組	教員	生徒	保護者	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて(各部、各科、各委員会)より	学校評議員による指導助言
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 学校ホームページをより見やすく充実させるとともに、更新の頻度を高め、最新の情報を提供する	B 72.5	B 64.0	B 67.4	情報	学校外向けWebページは北高ダイアリーを中心に新しい情報を速やかに公開・提供できるよう努力した。また動画の活用も増えている。校内向けのWebページは運用の中心を学年に任せており、学年のスキルや必要に応じて活用して頂いている。今後、記事の作成やアップロードを複数の教員で行えるように組織や運用ルールを明確にしていきたい。	情報の速やかな公開に加えて、教職員と生徒・保護者の評価結果を分析し、差異の解消にも努めていきたい。今後も情報提供が速やかに行われていく事が必要。
		2 多くの生徒が前面に出て活躍する場を提供するなど、学校説明会を充実したものにす	B 68.3			総務	新型コロナウイルス感染拡大のため3回のみ開催となった。全体会では生徒がスライドなどを使って本校の魅力を説明することができた。急ぎも実施した学校見学会では中学生に部活動を見もらうことができた。	対面による学校説明会への注力に加えて、スライドのデータをホームページにおける常時の公開を通じた魅力の発信に努めていきたい。
	危機管理体制の確立	3 防災HRRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上をさらに図る	B 61.2	B 57.9		総務	今年度も、避難訓練は基本の経路確認にとどまったが、昨年度とは違って、教科担当による誘導を設定した。今後、休み時間などの様々な状況下での避難訓練を設定していきたい。また、昨年度に引き続き、1月17日には防災教育プリントとして、教職員の体験談を配布した。今後も継続し、震災を風化させない工夫をしていきたい。	引き続き、有効な避難訓練の計画・実施に努めていただきたい。教職員・生徒の防災意識向上は今後も必要だと思ふ。
		4 いじめ対応チームを中心に職員間の連携をさらに密にし、生徒情報の共有を図り、いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止体制づくりを確立する	B 71.2			生徒指導	昨年に引き続き、心の健康に関するアンケートも実施した。些細な案件も情報共有ができ、大きな問題になる前に対応できた。	生徒指導部を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に向けた組織的な取組を期待したい。スクールカウンセラーによる心理カウンセリングも継続していただきたい。アンケートのみに頼りすぎないよう今後も続けていただきたい。
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	B 74.7		B 62.8	学年	(1年) 三者面談、保護者会に加え、適宜保護者との連絡、面談を行うことで保護者と学年・学級の情報を共有し、相互理解に努めた。 (2年) 三者面談、保護者会に加え、適宜保護者との連絡をとることで、学年の方針を伝え、情報を共有し相互理解に努めた。 (3年) 三者懇談、保護者懇談会を通して学年と保護者と情報共有し、相互理解に努めた。	保護者との情報共有はとても良いと思う。保護者とのより一層の連携を通じた相互理解、協力体制づくりに努めていただきたい。
		6 ボランティア清掃や学校評議員会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	B 64.1		B 58.8	教頭	新型コロナウイルス感染拡大のため、ボランティア清掃は実施することができなかった。学校評議員会や生徒指導部の登下校指導を通して、本校に対する地域の理解の一助となった。ボランティア清掃が3年間、実施できていないので、今後、実施する際、実施方法を再考する必要があるだろう。	地域清掃による交流の再開と登下校指導の一層の充実を期待したい。ボランティア清掃がコロナ禍で実施出来ないのは残念だが、今後色々な可能性を探り実施検討していただけたら良いと思う。
学力向上と進路実現	教員の授業力・資質の向上	7 教科指導力向上委員会と連携し、研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B 58.3			ICT活用	保健の授業で、ICTを活用した主体的な学びを意識した研究授業を行い、研究主題「ICTを活用した、互いに学び合う授業の工夫～主体的・対話的・深い学びの実現を目指して」で、近畿高等学校保健体育研究発表大会にて発表を行った。	引き続き、ICT機器の効果的な活用を通じた授業改善に努めていただきたい。
		8 新学習指導要領や新大学入試などの実施に向けて、職員研修の充実に取り組み、教職員の意識および指導力の向上を図り、本校のカリキュラムマネジメントの実現に取り組む	B 58.5			教務情報	新学習指導要領の実施に向けて、観点別評価を取り入れた授業改善の職員研修を行った。	校内研修の組織的・継続的な実施に努めていただきたい。
	すべての生徒の学力向上	9 3年間を見通した計画的な補習・補充やSHRでの小テストを実施し、生徒の学力向上を進める	B 69.4	B 68.3	B 67.3	学年	(1年) 基礎学力の定着をはかり、計画的に補習、補充、小テストに取り組めた。 (2年) 学習活動の定着をはかり、計画的に補習、補充、小テストに取り組めた。 (3年) 進路実現に向け計画的な補習、補充が実施できた。 (進路) 生徒が自律的に学習に取り組めるよう、各学年での補習計画を早い段階で生徒に提示できるよう努めたい。	教員の評価結果が低下傾向にある状況を分析し、適切な対応に努めていただきたい。
		10 生徒の学力向上に向け、量、質のバランスに配慮した課題を課すことに留意する。	B 66.0	B 56.2	B 66.1		(1年) 教科間の連携を密にすることにより、生徒にとっても効果的な質・量の課題を課すことができた。 (2年) 年度初めに1年間の計画を立て、生徒に過度な負担にならないよう、教科間の連携を密にした。 (3年) 生徒への自学自習を促すことができるように課題の量に配慮できた。	目標の達成に向けて、教職員の足並みを揃えた実践に期待したい。今後も教科間の連携は必要だと思ふ。
	総合的な学習(探究)の時間の充実	11 「家庭学習の記録」を通して家庭学習の実態を把握し学習指導に生かす。	B 67.8			教務情報	(1年) 一週間を見通した学習計画を立てその振り返りを行うことにより学習習慣の定着をはかった。 (2年) 学習活動の定着をはかりつつ、自己を見直すきっかけとできるような活用したい。 (3年) 自己管理の資料としてもっと活用できるように指導したい。	教職員間で情報共有しながら取組を進めていただきたい。
12 目標(取り組み姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、発表会を実施することで内容の充実を図る		B 66.7			1、2年とも発表会に向けて、目標に向けて取り組めたが、コロナ禍において発表会を中止せざるをえなかった(2年)(1年は延期して実施)。3年の総合探究もこれまでの内容を見直し、来年度はテーマ別に探究を進めたり、自己を見つける機会を増やす予定である。		3年間を見通した適切な計画の立案・実施に努めていただきたい。	
進路指導の充実	13 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、自己実現をめざすキャリア教育の充実を図る	B 70.2		B 64.5	進路指導	講演会、ガイダンス等はほぼ予定通り実施することができた。実施後の感想等を集約し、さらに充実したものとなるよう努めたい。	さらなる充実に向けて取り組んでいただきたい。	
	14 利用しやすい進路指導室をさらにめざし、面談や進路希望調査を通して1年から進路に対する意識の向上を図る	B 70.5	B 53.2	B 63.5		3年生の多くが進路指導室を利用しているが、1、2年次から進路に対する意識を高めるため、1、2年生の利用も促していきたい。	教職員間の共通理解により、利用促進を図っていただきたい。	

令和3年度 宝塚北高等学校 学校評価

A:よくできた(76~100) B:できた(61~75) C:あまりできなかった(28~50) D:できなかった(0~25)

領域	重点目標	令和3年度 具体的な取組	教員	生徒	保護者	担当	今年度の評価とさらなる活性化に向けて(各部、各科、各委員会)より	学校評価員による指導助言	
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	15 1,2年の「朝読」の時間や特別講義等の実施によって、読解力や思考力の向上にさらに努める	B 67.8		B 69.8	演劇科	課題や作業に追われ、じっくりと読み書きに取り組み、読解力や思考力の向上に努める時間が削られているのが現状である。「朝読」の活用や通常の授業との連携をより一層推進したい。	ゆとりの確保に向けた創意工夫に努めていただきたい。朝から声を出すことは良いことである。朝読を継続していただきたい。	
		16 専門科目等を通して対話力・表現力を身に付け、コミュニケーション能力の育成をさらに図る	B 69.2	A 76.5	B 70.6		今年度も活動に制約が生じ、専門科目の実施には工夫が必要となったが、より対話力・表現力を見直す機会となり、積極的な取り組みにつながった。今後も継続していきたい。	評価結果の低下の要因を分析し、積極的な取り組みにつなげていただきたい。	
		17 特色ある科目、特別講義、外部公演などの学びを通して、芸術への愛情を深め、調和のとれた人格の育成を図る	B 70.1		B 70.8		今年度も中止になった外部出演がある一方、「希望の家」等一部の外部出演が復活でき、生徒が大きく成長する機会となった。今後もさまざまな工夫を講じ、継続していきたい。	発表の場の確保に向けて、引き続き努めていただきたい。	
	GS科の充実	18 シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	B 58.3		B 71.0	GS科	今年度もシアトル研修は実施できなかった。GS科独自の取組だけではなく英語科と連携して英語の授業科目を利用したり国際理解教育委員会と連携したりしてZoom等を利用して海外の企業・大学・学生との交流会や研究発表の機会を複数回実施した。生徒の事後アンケートにより高評価を得ることができた。今後も継続していきたい。	様々な工夫により、機会の確保に努めていただきたい。	
		19 専門的な数理科目の授業や科目横断型授業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を深く考える機会とする	B 72.5	A 84.8	A 75.6		GS科の学校設定科目「GS I」「GS II」「GS III」を通して深い学びにつながる探究的活動(課題研究)を充実させることができた。卒業生アンケートではGS科での学びによる成長を実感する回答が多かった。また、すべての課題研究班が外部発表会等に自主的に応募し、そこでの受賞歴も多い。今後も継続していきたい。	引き続き、探究活動の充実・発展に努めていただきたい。成長が実感できる事は素晴らしいと思う。	
		20 高大連携授業や課題研究等の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力を育成し、学ぶ意欲を高める。	A 75.6		A 77.6		SSH事業の利点を活かし、様々な場面で大学・企業・博物館等との連携を行うことができたが、コロナ禍のためにGS科全員での大学訪問等の研修活動ができなかった。しかしながら、課題研究班や個別の活動に置いては外部機関との自主的な活動が進んだ。しかしながら、コロナ禍の収束を願うばかりである。	情勢の変化に応じた的確な対応に期待したい。3/9開催のSSH講演会で生徒の感想を期待する。今後全員での活動はもちろんのこと、班や個別の活動も続けていけるのではないかと。	
豊かな人間性の涵養	ふるさと貢献活動事業の充実	21 特別支援学校等との交流や地域との連携を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B 60.7			総務	宝塚市立養護学校との交流は昨年度に引き続きビデオ交流となった。1年生の有志によって交流が行われたが、交流の内容について、教師からの指導という形になってしまった。今後、企画から生と共に作り上げるものにしていきたい。	実施方法の検討を継続的に進めていただきたい。	
	国際交流事業の充実	22 提携校等との交流を通して、世界の中の日本や自分の立ち位置を考え、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	B 62.7			国際理解	大阪大学留学生を招いての交流会、マレーシアの大学や台湾の高校とのオンライン交流会を実施した。また、例年通りJICA関西訪問も予定している。コロナ禍を機に、今後の国際理解教育の在り方を模索していきたい。	教員の評価結果が急上昇しており、取組の充実にも引き続き努めていただきたい。	
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	23 登下校のマナーや校門指導・授業開始時の挨拶や身だしなみの指導を通して、北高生としての意識の向上を図る	B 64.0	B 65.9	B 71.8	生徒指導	言われたこと、決められたことは出来るが、自主的、自発的な行動は乏しい。挨拶、身だしなみは勿論の争、気遣い、気配り等、社会生活を円滑に行うための基礎基本を身に着ける。	学校全体を通じた組織的な指導に努めていただきたい。挨拶は全ての基本である。相手を思いやる心を育てていただきたい。	
		24 HR「総合的な学習の時間」・行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	B 56.6	B 60.7	B 63.5	人権推進	人権教育HRや異世代の方と交流を行う機会がなかった。しかし、学校行事の中での仲間づくりを通して、人権意識が向上できたと考えられる。また1学年対象の命を大切にする講演会でも人権意識を育むことができた。今後、HR活動や講演会など、生徒たちが意識して取り組める企画を計画していきたい。	特別活動の実施のみならず、教職員による日常の生徒対応も重視していただきたい。人間関係は一番難しいが、差別的ない世の中に。	
	保健・健康教育の推進	25 「図書だより」をはじめ様々な方法で、図書への興味関心を高め、図書館の利用を啓蒙し、利用頻度の向上をさらに図る	A 78.7	B 50.2		図書	毎月「図書だより」と「新着図書案内」、学期末には特別号を発行した。他にも図書委員が中心となり、「図書委員便り」をNO. 8まで発行した。また図書委員発案の読書週間行事も2目を迎え、少しずつ生徒にイベントが浸透している。今後も、図書委員を中心に様々な情報を発信していきたい。	引き続き、積極的な情報発信に努めていただきたい。	
		26 保健だよりや講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にすることを図る	B 68.6		B 64.9	保健	保健だより(すみれ)を毎月発行した。特に新型コロナウイルス感染症の感染策策策について情報発信した。今後もテーマの精選、内容の充実を図りたい。講演会についても、命を大切にできる・自尊感情を高めるような内容を企画したい。	引き続き、保健・健康教育の推進に努めていただきたい。	
	SSHによる特色ある学校づくり	SSHプログラムによる学校教育活動の活性化	27 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整え、研修等を行う	B 70.5		B 63.9	生徒指導	今年度はカウンセラー希望者が増加、回数の増加を要請し対応することができた。来年度はカウンセラーが複数の体制となり、より相談者のニーズに合った機会を提供できるのではと考えている。今後も職員とカウンセラーとの連携をすすめ、教育相談活動の円滑な実施を図りたい。	カウンセラーの増員の機会を有効活用した対応に期待したい。先生方とカウンセラーの連携が大切である。
			28 学校行事や集会等、生徒自らが企画・運営する場を与え、自主的に考え、活動する機会を充実をさらに図る	B 70.4	B 64.5		生徒指導	生徒一人一人が生徒会の一員という自覚と責任を持たせる必要がある。生徒会役員を筆頭に「自ら考えて行動する」力を身に着けさせるために、色々な課題を与えたい。	生徒会活動を通じた当事者意識と主体性の向上に努めていただきたい。
29 学校では、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校として、特色ある教育活動が行われている。		B 73.2	B 67.4	B 72.7	SSH	SSH特例を活かし、学校設定科目「GS I・II・III」のシラバスを完成させることができた。このような探究的活動(課題研究)に特化したプログラムはSSH指定校でなければ実施できない教育活動である。	学校の活性化には非常に有効であり、シラバスの実行・見直しに継続的に取り組んでいただきたい。		
30 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定を受けていることは、学校の教育活動にとっても効果的である。		B 68.0	B 68.5	A 75.9		今年度はコロナ禍にあってもオンラインを活用して、成果の普及を行うことができた。「リサーチプラン」研修会ではオンライン開催にも関わらず他校から30名近くの参加があり、他府県からも9名の生徒の参加があった。「小中学生のための自由研究相談会」もオンラインであったが13名の申し込みがあり、お礼のメールもいただいた。	引き続き、SSH事業を通じた成果の還元にも努めていただきたい。		
SSHプログラムによる知的探究心の育成	31 本校のSSHプログラムが、数学や理科などに対する興味・関心や知的探究心の育成につながっている。	B 70.4	B 66.1	A 69.4	SSH	科学系オリンピックへの参加が今年度もGS科・普通科を含めると50名ほどあった。特に生物オリンピックでは好成績を収め、全国大会では選手宣誓を務めた生徒もいた。また、普通科の「総合的な探究の時間」もSSHを活かして外部講師によるレクチャーも面白い、学校全体への普及を進めることができた。	教員の評価結果の低下を分析し、学校全体への普及につなげていただきたい。		
	32 本校のSSHプログラムが、学力の向上につながっている。	B 68.5	A 76.1	B 68.7	今春のGS科の卒業生は32名が国立大学(東京大1名・医学部医学科2名)に進学した。今年度も医学部医学科に4名出願するなどのことから、SSHプログラムが学力の向上につながっていると考えている。	教育活動のさらなる充実と希望の進路実現に努めていただきたい。			